

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No. - (事務局用)	タイトル 超高齢化社会を見据えたコミュニティの持続性確保	自治体名 仙台市
アイデア名 (注2) (公開)	地域の支え合いと子供や若者との交流による「コミュニティ・まちチャレンジ」		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名 (公開)	IZUMI・鶴が丘「コミュニティ合唱団」		
チーム属性 (公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input checked="" type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数 (公開)	16名		
代表者情報	氏名 (公開)	森本 修	
メンバー情報		鶴谷民司、吉田稲三、佐藤哲也、山城秋美、石垣百合美、田端真依、中村まどか、平井優衣、廣澤綾乃、星茉奈香、渡邊彩芽、後藤大河、佐藤 介、柴田矩秀、渡部美咲、	

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2 ページ以内でご記入ください。

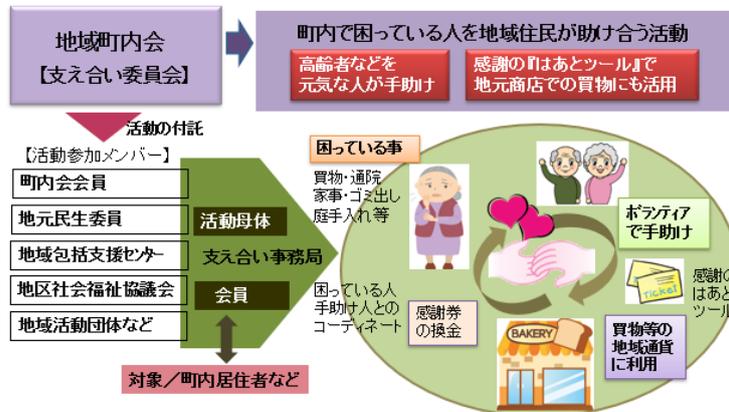
#### <応募チームとして解決したい課題>

かつてはどの地域にも共に支え合うコミュニティがあり、郊外住宅地が多い泉区でも若者世代を中心に地域活動が盛んでした。その一つである鶴が丘地区では、高齢化が進むとともに住民交流が低下し、将来的には住み慣れた地域の存続も危ぶまれます。東日本大震災でコミュニティの大切さを痛感した我々チームは、高齢化の余波に直面する地域を立て直すためには、顕在化している高齢者の地域での孤立や空家といった問題だけでなく、それぞれの世代の困りごとに地域としてどう向き合い、地域の交流を活性化していくかが課題であると捉えています。

#### <解決アイデアの内容>

私たちは、持続可能なコミュニティを維持する仕組みとして、住民同士が生き甲斐を持って住み続けられる循環的なコミュニティの構築に取り組みます。そのためのアイデアとして、高齢社会を高齢者世代のみに目を向けるのではなく、子供・若者世代を含む幅広い世代との交流と支え合いに着目し、地域における問題や困りごとを身近に解決していく「コミュニティ・コラボレーション活動」を提案します。

【提案 1】高齢者への生活支援～高齢社会に多い困りごとを元気な高齢者が手助け。御礼を地元店舗にも還元。



- ・高齢世帯は今後益々増加し、日常生活の困り事も尽きない
- ・そんな時、近くの人に助けられたらどんなに嬉しいか
- ・このちょっとした助け合いを町内の住民同士の支え合い活動で行ってみたいかどうか
- ・更に手助けした感謝の御礼を地元店舗での買物にも繋がれば、地域活性化の一助にもなる

【提案 2】高齢者による子供達への学習支援～高齢者の活躍の場とともに子育て家庭への応援にも一役。



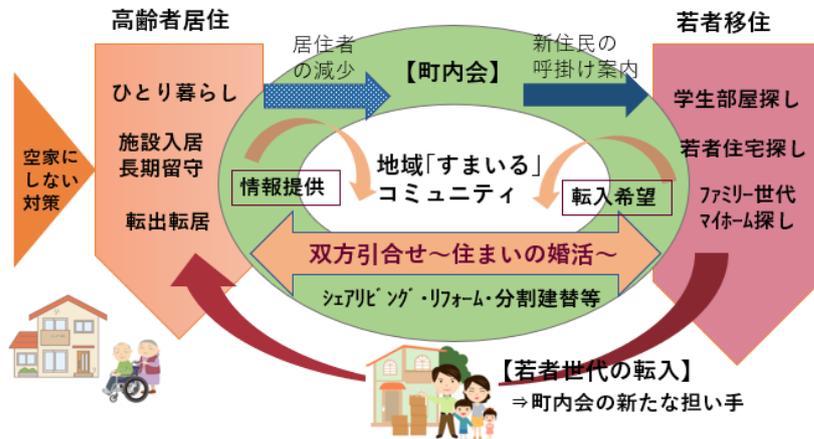
- ・困り事は高齢者に限らず、子育て世代も共働きで子供だけの生活時間が長い。
- ・居住地域は塾のある区中心部から離れ、共働き家庭には送迎対応が困難
- ・そんな時、地域の大人が子供の勉強を見てくれば、どんなに助かるか
- ・子供は友達と一緒に時間を過ごせ、高齢者には活躍の場にもなる
- ・子供への学習支援の場を通じ地域コミュニティの輪を広げたい

【提案3】多世代交流のお茶の間づくり～学び・遊び・食の交流を行う。子供の食育・高齢者の孤食防止にも一役。



- ・少子高齢化で今後も増える独居生活はとても味気ない
- ・そんな時、地域で皆が集える「お茶の間」のような場があれば大変助かる
- ・高齢者も子供達も多世代が共に交流することで生活に励みが生まれる
- ・一緒に料理を作り食事をすることで子供の食育にも高齢者の孤食防止にも役立つ

【提案4】脱空家／すまいる環境サポート～住宅に関する地域相談を行う。シェアハウス・若者世代転入にも一役。

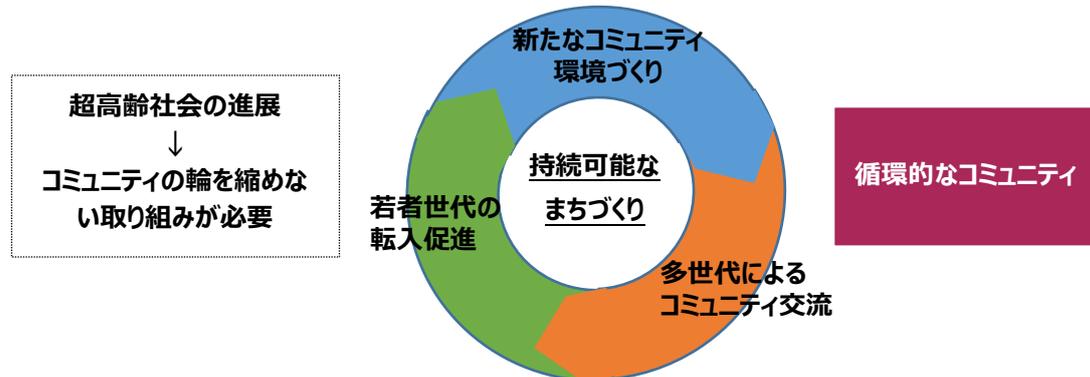


- ・高齢化に伴う住まいの空家問題は無視できない
- ・空家の増加と地域人口の減少を防ぐために地域自らの活動があれば助かる
- ・使われていない住まいも転入希望者に使っていただく円滑な流れが必要
- ・住まいの情報交流を促し若者世代も増えるコミュニティ環境を求めたい

これら4つの提案は、地域に住む多様な世代による支え合いと交流できる新たなコミュニティの創出をめざすものです。

- 高齢者の中には元気な人は沢山います。家に閉じこもることなく、各々のキャリアを活かして身近な地域で活躍し子供達や子育て世代と一緒に触れ合える生き生きとした環境が生まれます。
- 本チームの居住地域・鶴が丘地区の近辺には大学もあります。学生達の参加を得ることで更なる世代間交流が進み、子供から若者・高齢者までが集うお茶の間のような笑顔で暮らせる豊かな環境が育まれます。
- 住まいの対策にも地域がちよっと関わることで若者世代を呼び込み、地域の活気ある環境も取り戻せます。

このようなコミュニティを住み慣れた地域で創り出していくことは、人も街も元気づけ地域の若返りにも繋がります。超高齢社会における持続的まちづくりを目標に、地域を若返らせる循環的なコミュニティづくりに挑戦していきます。



## (2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

### 【仙台市のデータにみる高齢化】

○泉区鶴が丘地区の高齢化率…36.5%（平成29年10月1日現在）

出典：仙台市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(平成30(2018)年度～平成32(2020)年度)

【参考】仙台市の高齢化率…22.9%（平成29年10月1日現在）

出典：仙台市 年齢（5歳階級別）住民基本台帳人口

○日常生活不安に関する年齢別の傾向…仙台市が65歳以上を対象にした調査では、日常生活の不安について「物忘れをすること」「食事のこと」「掃除や洗濯など家事のこと」「火災や防災のこと」と回答する人が概ね年齢が高くなるにしたがって多くなっています。

(n=3,139)

	回答者数	全体	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
自身や家族の健康のこと	2,016	64.2%	65.5%	64.9%	63.9%	65.6%	66.5%	49.1%
物忘れをすること	682	21.7%	12.4%	18.8%	25.2%	30.4%	37.6%	31.0%
食事のこと	262	8.3%	4.5%	7.8%	8.5%	11.3%	17.4%	13.8%
掃除や洗濯など家事のこと	232	7.4%	3.6%	5.4%	7.6%	11.5%	17.4%	12.1%
火災や防災のこと	439	9.6%	14.2%	14.0%	18.2%	25.2%	12.1%	5.7%

出典：仙台市高齢者保健福祉計画策定のための実態調査 平成28年度「高齢者一般調査」報告書より表を加工のうえ抜粋

### 【泉区郊外住宅地・鶴が丘地区での住民アンケート調査】

鶴が丘連合町内会では、平成29年度に鶴が丘地区の住民3,534世帯を対象に郊外住宅地のまちづくり活動に関するアンケート調査を実施した（期間：平成29年10月～11月、回収数：1,913世帯、有効回答数：1,782世帯）。本セクションの以下の表とグラフはすべて同調査によるものです。

#### ① 生活における困りごとはライフステージに応じて異なる

日常の困りごとに関する質問では、全体的に「外出時の交通手段」や「買い物」が3割程度で最多の項目ですが、年代ごとにみると、40代以下では全体と比較した場合「子育てや教育」をより困りごとと感じている一方、80代以上では「自身や家族の医療や福祉」「病院の通い」「体の健康維持」といった健康・福祉に関する困りごとが顕著なほか、「住宅や庭の手入れ」も他世代と比較すると高くなっています。

#### 鶴が丘地域で生活していて、困っていると感じることはありますか？【いくつでも】

(n=1,782)

	回答者数	①子育てや教育	②自身や家族の医療や福祉	③自身や家族の介護（ケア）	④病院の通い	⑤体の健康維持	⑥食事の準備や後片付け	⑦掃除や洗濯など調理以外の家事	⑧住宅や庭の手入れ
全体	1,782	3.5%	18.5%	8.5%	27.5%	10.0%	1.6%	1.9%	20.8%
40代以下	225	14.7%	9.3%	2.7%	18.2%	2.2%	0.4%	0.4%	18.2%
50代	178	2.2%	11.2%	8.4%	20.2%	5.6%	0.6%	1.7%	24.7%
60代	654	1.8%	18.7%	8.1%	28.0%	9.6%	0.9%	1.4%	18.5%
70代	569	1.6%	24.1%	8.8%	29.9%	12.5%	2.3%	2.6%	20.7%
80代以上	145	2.8%	19.3%	18.6%	40.0%	20.0%	5.5%	3.4%	29.7%

	回答者数	⑨買い物	⑩ゴミ出し	⑪銀行・郵便局・行政の手続き	⑫外出時の交通手段	⑬災害時の対応	⑭特になし	無回答
全体	1,782	30.1%	1.0%	7.2%	33.8%	9.5%	26.6%	1.6%
40代以下	225	36.9%	0.4%	14.2%	40.4%	4.4%	24.0%	0.9%
50代	178	25.3%	0.6%	9.0%	45.5%	10.7%	24.2%	0.0%
60代	654	27.4%	1.2%	6.9%	31.3%	8.3%	30.0%	1.8%
70代	569	30.6%	1.2%	4.9%	31.3%	11.6%	26.0%	1.9%
80代以上	145	35.9%	0.7%	5.5%	30.3%	13.8%	20.0%	2.1%

※表側からは年代不明11名の回答を除いている

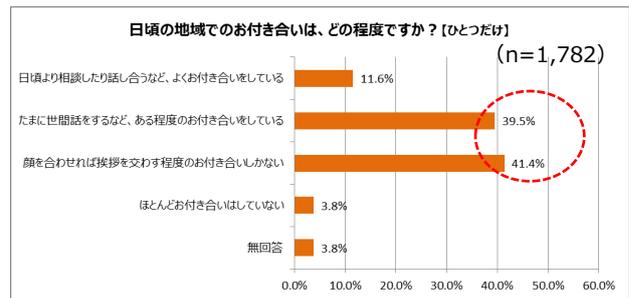
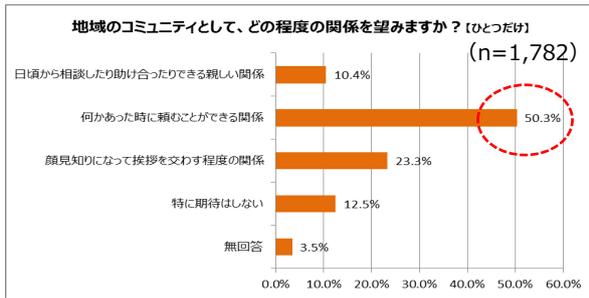
全体より+5p以上 10p未満

全体より+10p以上

全体より-5p以上 10p未満

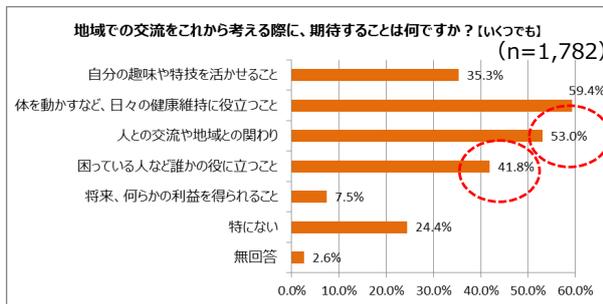
全体より-10p以上

## ②頼みごとのできる関係性を望む一方、付き合いは希薄



アンケートで住民との関係性について尋ねたところ、頼みごとのできるような関係性を望む声が強かった一方、地域での付き合いは世間話等のある程度と、挨拶を交わす程度の合計が8割にのぼっています。

## ③地域の交流を求める声は多く、誰かの役に立ちたい一面も



地域での交流に関して期待する点を尋ねたところ、健康づくり、人や地域との関わりを半数以上の方が回答するほかに、誰かの役に立ちたいという回答が想定していた予想を上回り4割を超える結果となりました。

## ④40代以下の世代は身近な生活に関する支え合いに期待

「地域の支え合い活動」は、地域の問題解決に期待できますか？【ひとつだけ】

	身近な生活支援については期待できる(例:福祉や子育て等)	日常生活における幅広い課題についても期待したい(例:買い物や通院、交通等)	あまり期待はできない	わからない	無回答	
全体	1,782	13.5%	44.0%	19.3%	19.5%	3.6%
40代以下	225	27.1%	30.2%	14.7%	24.9%	3.1%
50代	178	13.5%	48.9%	12.9%	24.2%	0.6%
60代	654	11.6%	46.0%	21.4%	17.9%	3.1%
70代	569	10.9%	47.5%	20.4%	17.8%	3.5%
80代以上	145	12.4%	39.3%	20.0%	18.6%	9.7%

※表側からは年代不明11名の回答を除いている

全体より+5p以上 10p未満

全体より+10p以上

全体より-5p以上 10p未満

全体より-10p以上

実際に、地域での支え合い活動を行った場合の期待度を尋ねたところ、「身近な生活支援」と「幅広い課題」への期待の合計がいずれの世代も半数を上回る結果となりました。特に40代以下のより若い世代では、子育て等の身近な支援への期待が高い結果となりました。

町内会として着手できる範囲から地域住民の困りごとを解消できるような仕組みを構築するアイデアとして、仙台市全体を対象とした調査で示された高齢者の日常生活に対する不安が、鶴が丘地区の住民アンケート調査においても同様の傾向となったことから、高齢者の抱える不安に対応すべく提案1の取組みが、また、比較的若い世代の子育てや教育への困りごとでも分かった結果を踏まえ、提案2の取組みが有効と認識しています。

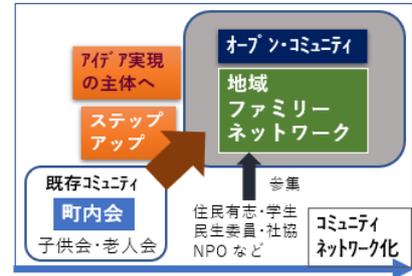
またアンケート調査から読み取れる頼みごとをできるような関係性や、交流の場といった地域のつながりを求めている実態、支え合いに対する一定の期待を踏まえると、高齢者だけでなく若者世代も含んだ多世代連携による地域交流の場が必要であると考えます。そういった場づくりが地域課題の解決にもつながると判断し、高齢者と子供の問題に焦点を当てた提案3と、空家の問題に焦点を当てた提案4の取組みを実施していくことが有効であるとらえています。

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

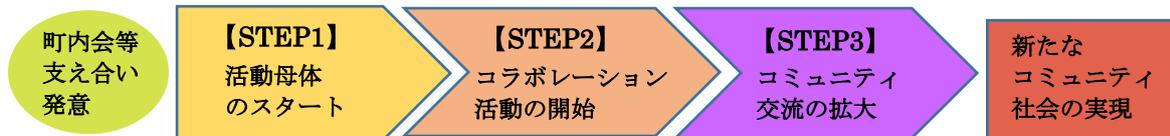
アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の**大まかな規模とその現実的な調達方法**、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその**解決策等**、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

#### 1. アイデアを実現する主体

実現に向けては、地域を長年支えてきた既存コミュニティの「オープン化」を図ります。町内会を基盤に子供会や住民有志・民生委員・地区社協 NPO・大学生も緩やかに連携できる「オープン・コミュニティ」（地域ファミリー・ネットワーク）を創生し、これを主体にコラボレーション活動を実現します。



#### 2. アイデア実現の取組みステップ



#### 【提案毎のステップ】

	取組み内容	手法
提案1 高齢者 への生 活支援	<b>【活動母体のスタート】</b> ・町内高齢者の会員登録 ・活動ボランティアの登録  <b>【コーディネート活動の開始】</b> ・困っている人からの依頼 ・手助けする人への伝達  <b>【感謝券の地元店舗利用】</b> ・買物利用の店舗協力 ・店舗への感謝券の換金	・事務局を設置し、町内会の回覧・民生委員の口コミによる募集を行い、生活支援利用希望者や支援活動をするボランティアを登録する（高齢者会員／入会金・年会費各 1 千円） ・事務局が依頼を受け、活動者に連絡し手助け内容や日時などを設定する（活動費／@30 分 400 円を利用者から徴収 ⇒感謝券をボランティアへ） ・地元の協賛店舗を募り、手助けした感謝券を地域通貨として活用し換金する（感謝券@400 円⇒買物利用@300 円 事務局手数料@100 円）
提案2 高齢者 による 子供達 への学 習支援	<b>【活動母体のスタート】</b> ・活動チームの結成 ・学習・子育て経験者の参集  <b>【学習活動のプログラム作成】</b> ・気軽に集える居場所づくり ・放課後コミュニティ学習の組立  <b>【大学生・NPO の参加】</b> ・外部からのオープン参加 ・夏休み等特別学習の組立	・町内会と子供会・小学校の連携に加え、リタイアした元教師・保育士・看護師・学習指導経験者等住民有志による子供支援チームを結成する ・町内会の集会所を利用し、小学生の放課後生活として皆で宿題復習・英会話を勉強する（平日毎週 2 回⇒利用料 1 千円/月） ・近隣大学や子供支援団体に声掛け、大学生も一緒に参加するチャレンジ学習を企画する（夏休み絵画工作づくり・体験イベント等）



<p><b>提案3</b> 多世代 交流の お茶の 間づくり</p>	<p>【活動母体のスタート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動チームの結成</li> <li>・町内高齢者の参加</li> </ul> <p>【食育交流への拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・料理づくりの孫子交流</li> <li>・共に食卓を囲む孫子交流</li> </ul> <p>【地域ファミリーの創生】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共働き家庭の親も参加</li> <li>・栄養研究の学生も参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供応援チームに町内高齢者も随時参加し、多世代で興ずる遊び・学び交流活動を行う（昔遊び・折り紙・将棋・そろばん・ゲーム等）</li> <li>・集会所等で食材を持ち寄り、子供と高齢者が一緒に料理を作り食事をする活動を企画する（子供食堂の拡大版／一食@300円程度）</li> <li>・地域住民・学生誰もが料理づくりに参加でき、帰宅の遅い親も立ち寄れる交流活動も行う（一食@300円程度、協力金100円程度）</li> </ul>	<p>子供達と 高齢者との 交流→ 続けて活動</p>
<p><b>提案4</b> 脱空家 /すまい る環境 サポート</p>	<p>【活動母体のスタート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動チームの結成</li> <li>・すまいるコミュニティの情報発信</li> </ul> <p>【住まいの地域情報バンク】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者宅の住まい情報集約</li> <li>・若者の転入希望情報集約</li> </ul> <p>【住まいのマッチング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住まいの婚活活動</li> <li>・空家化しない利活用サポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局を設置し、学生・若者に地域コミュニティと住まいの地域支援を行う情報発信を行う（提案1～3のコミュニティ活動も併せ紹介）</li> <li>・事務局を窓口、地域居住者や家族等からの住宅利活用に関する相談や他地域からの転入希望等の情報をワンストップ的に集約する</li> <li>・事務局が仲介となり、住宅利活用を望む者と新たに住みたい者との双方引合せを企画する（紹介御礼⇒新住民の町内会へ積極参加）</li> </ul>	

### 3.最終ゴール

コミュニティ活動に関わる人材が増え、交流の輪が広がる  
 子供から大人・高齢者まで多世代がこぞって集まる  
 学生・大学・商店・NPO等の多セクターも仲間に加わる  
 ↓  
 新たなコミュニティ社会が実現する  
 高齢者も元気になり生き甲斐を持って暮らせる  
 地域に関わる若者も増え街も元気になる  
 ↓  
 住み慣れた地域の若返りが進行し、超高齢社会でも持続可能なまちづくりが達成できる